実現しよう！最低賃金1000円・全国最賃制度　賃金の底上げで景気回復を！

2010年最低賃金闘争ニュース

no、16

大阪労連：大阪市北区錦町2-2　TEL 06-6353-6421

2010年7月29日

7・27労働局前ハンスト座り込み行動　職場でも応援！

暑い中、何度もサポーターシールが落ちそうになったけれど、頑張ったよ！（生協の出荷で働くみなさん）

正規労働者も一緒に最賃引き上げをアピール！

７・２７大阪労働局前ハンスト座り込み行動を実施しましたが、「ハンストには参加できないけれど、応援しているよ」というサポーターは職場で約３０００人、「サポーターシール」（左写真）を貼って、自治体、医療、生協などの職場から応援をしてくれました。生協労連は、正規労働者もパート労働者も全員サポーター応援をするよう呼びかけ、１３人がハンストに参加しました。西淀川医療労組は、毎週火曜日に原水禁大会財政でカレー販売をしていますが、その日はカレー販売をしながら、患者さんや友の会会員、職員に「今日、最賃１０００円以上に引き上げる、こんな行動をやってんねん！」と３０人以上の人にシールを配りました。また、診療所、受け付け事務やディサービスの患者さんにもシールを配って応援をお願いしました。

ハンスト座り込み行動への応援やリレートークより

○　大商連　瀬戸副会長

労働者が中小業者と一緒になって景気回復のため、頑張っていただくとありがたい。

○　大建労　大谷書記次長

公契約条例を制定して、普通に働いて生活できるようにしたい。

○　大生連　　江田事務局次長

生活保護相談が２～３倍になっている。３０代、４０代の働き盛りの相談が多い。人間らしく生きていくため、最賃や生活保護

費を引き上げて、社会保障を拡充していこう。

○　黒田まさ子府会議員（共産党）

人間らしく働きたいという願いが踏みにじられている。大阪の失業率は６．３％、全国より１．２％高くなっている。橋下知事は２９．２％もの高金利の特区申請を行おうとしており、その一方でセーフティネット貸付を厳しくしようとしている。最低賃金引き上げの運動が弾みをつける運動となるように！

○　女性部

ヘルパーで働く女性の生活証言メニューを作って並べている。（右写真）炭水化物ばかり。職場で５００人以上がハンストとサポーターを行っている。ハンスト者に送る歌「食べたらアカン　食べたらアカン　最賃 1000 円あがるまで食べたらアカン」　使用者委員に送る歌「なめたらアカン　なめたらアカン　女性をなめたらこわいんやで～」

○　西淀川労連

友達は時間給が多い。忙しい時は残業をして何とか暮らせるが、体はくたくた。暇なときは早く帰ってくれと言われて、月に１０万円を切っている。みんな実家にいる。ひとり立ちをしたいけれどできない。５年間、最賃暮らしの人がいる。「昨年１４円上がって７６２円になっても生活は変わらない」と言っていた。１０００円に上がれば少しでも希望が持てる。

7･28　最賃･人勧　中央行動

７月２８日、「なくせ貧困！　最低賃金引き上げ、公務員賃金改善、国民本位の財政実現」の中央行動に、大阪から４０人以上が参加をしました。

真夏の日差しが照りつける１２時過ぎに、日比谷野外音楽堂で総決起集会が開かれました。大阪労連からは、中津川さんが前日の１０００分のハンスト座り込み行動、審議会での小豆島委員長の意見陳述、青年部の最賃体験・生活証言運動について報告しました。（別紙）

１３時から厚生労働省前、人事院前行動が行われ、全労連の伊藤幹事から「２７日の目安小委員会がもの別れに終わり、８月２日の目安小委員会で決着？となった。使用者は成長率が望めないこと、中小企業の賃金改定がマイナス、生保との乖離解消が優先と述べている」と報告があり、それらを反駁しました。人事院勧告について公務部会の秋山事務局次長から「人事院との午前中の交渉の中で、昨年同様のマイナス勧告の見通しが出された、マイナス配分を、５５歳を超える人にかぶってもらうとしている、どこかで歯止めが必要であり、マイナス勧告は許さない」と６５歳への定年延長や非常勤の処遇改善問題にもふれながら報告がありました。

14時から　厚生労働省前座り込み･リレートーク
女性部の「最賃替え歌」を　みんなで、披露！